

(月山東南エリア西川口大ロマン古里) “月山ユートピア・ランド” 案内マップ (案) 2026/06/06



山形市内からの北西方角遠望

日陰の向日葵 清川道
怪しげ！何か始まる一夜宿



たかきよ
高・清は昔が匂う謎の道
遊びと学びのごちゃ混ぜ時空



令和7年度西川町まちづくり団体活動補助金活用

『月山ユートピア・ランド』不思議名所史蹟

- ✓ 下図本域で色付けした山道は、道普請に注力しており歩行可である。
- ✓ (註)「(9) 御田の神」は少し藪漕ぎを要する。「(10)「狐の砦」は本通りから眺められる。「(12)人面遥拝石」は「天空石橋」の西側にある。その他は道沿いにある。





(弘法大師像)



(墓石多数／女性戒名墓石複数体)



(右／御所王子社建立趣意刻字石塔)

[1] 清川行人小屋前石碑群



[2] 清川御所王子社／五所皇子稲荷神社
(手前に墓石1体／寸詰まりの鳥居)



[3] ^{てづくし}手盡テラス／頭部平坦
(南西部大眺望)



[4] ^{ごだっし}御立石／頭部鋭角
(南東部大眺望)



Ⓑは墓石の一部か？

Ⓐ右側に「岩根澤 本道寺」と刻字

[5] Ⓐ道しるべ兼(半体)地藏菩薩像
(Ⓐの上部とⒷの下部は不明)



[6] 横道分岐目印二つこぶ岩
(丸/高清水通り、矢印/横道方向マーキング)



[7] 追分碑
(右 月山 羽黒山 左 湯殿山 牛首)



[8] 来名戸神^{くなど}
(地藏菩薩像と女性戒名墓石3体)



[9] 御田の神
(二人の後方の窪み)

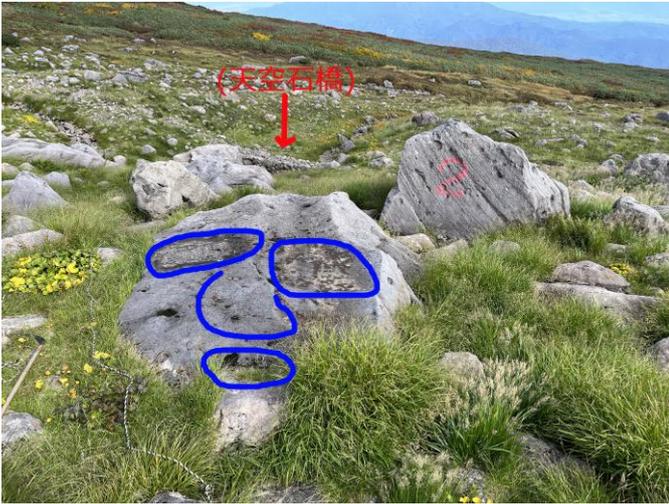


(調査時撮影)

[10] 狐の砦
(岩峰群)



[11] 座禅石
(手前に階段状石)



しゃっきょう
[12] 人面石 橋 遥拝石
(現地で一目、人面)



[13] 万年雪
(年によっては消える)



しゃっきょう
[14] 天空石 橋
(石造堰堤にも見える)



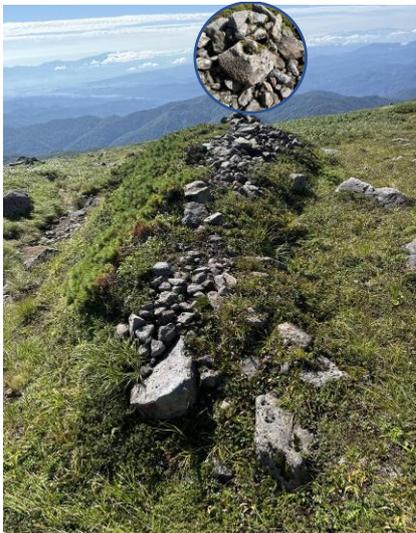
(左は南方、右は西方を望む)



[15] 夫婦岩
(内部に空洞部)



[16] 胎内岩／内部に空洞部
(数多の墓石・供養碑、女性戒名墓石も多数)



[17] 竹の塚古墳
(五輪塔の火輪?)



[18] 墓石2体
(右側「風月妙清禅定尼」(女)」と刻字)

清川行人小屋や月山頂上小屋を拠点に、 立寄り散策、周遊して、不思議なものと対面しよう！

この域は、出羽三山全体俯瞰の上で、他の域にも負けず劣らずの聖地である。そこで、ここらを「(月山東南エリア西川口大ロマン古里) 月山ユートピア・ランド」と称する。

多くの人達に知って欲しい、現地に行き対面して欲しい、拝んで欲しいと切望しています!!!

このエリアに分け入る皆様にとって心強い拠点設備が2階建造りの **(※1)** 清川行人小屋である。 **(※2)** 夏期間は冷たい水を屋内の炊事場に引き込んでいる、トイレは大小用二つある、薪ストーブ(薪材は小屋内玄関にあり、少なくなれば備付の鋸・鉋で利用者が作る)がある、相応の布団と毛布を用意している。ここを拠点に周遊すれば知的好奇心がくすぐられ、楽しみ・面白さが深みを増すだろう。

(※1) 無人、利用協力費1千円/人、管理者=清川仙人会(連絡先;片倉忠幸 090-1067-4225)

(※2) 冬期間は万が一の凍結を想定し、建物外に水を出している。

また、月山頂上小屋は、夏期間は管理人常駐で営業している。

さて往古を偲ぶ、本道寺行者は旧本道寺を起点に高清水通りを北上し、湯殿山あるいは月山を目指した。岩根沢道者は旧日月寺を起点に清川道を北上し、湯殿山あるいは月山を目指した。旧本道寺は開創以来始終真言宗に帰依したものの、江戸期のある時期からは月山(南半分)の別当職を務めた。旧日月寺は開創直後は真言宗であったものの江戸期のある時期から天台宗帰依に改宗した。

すると、横道分岐目印二つこぶ岩や天空石^{しゃつきょう}橋手前の合流点においては、時には両者、行者と道者は接近交差・交錯・交流した可能性大である。その場では信仰や法流（宗派ごとの参詣全般に係る決まり事や仕来たり）を巡って口論したものでしょうか？ いやむしろ先達を含めて談笑したことだろう。何時の世も里においては個人、あるいは集団のエゴを剥き出して対立に向かう点はあるが、神^{かみ}仏^{ほとけ}の御座す神聖な御山にあっては、人間の逆しまなエゴは雲散霧消し親睦和合に向かうものだ。交差点は今も昔も人々が出会い、離れて別れる、会者定離・愛別離苦の悲喜交々の結合点である。この境界は古来、今の西川町のキャッチフレーズ「ごちゃ混ぜ」を先取りしていたみんなの祭り（祀り）の時空間、情報交換の場であったのだ。こんなにも摩訶不思議な魔物達が潜む本フィールドから浮かぶ全貌は、この大地をW体（ジェンダー女 Woman）とし、天空からはその母体を目指したM体（ジェンダー男 Man）が降臨し、いわば、精霊接触、陰陽感合の中に天地人融合^なの生せる技だが常識外の様相（光景・様態）を顕現せしめ、このような名所・史蹟を生んだのだろう。それらは何かを語り掛けて来る、新たな心の胎動の予感を兆す、まさに、今昔を問わず精神文化を育む今でいう「ごちゃ混ぜクロスギング^{crossing}エリア」、今様の金胎曼荼羅ブースなのだ。交差点は、集合の視点からは無境界平等点、万事凝縮ゼロポイント、発散の視点からは新創造基点、万象萌芽原点となるのである。月山を目指すのみのピストン・ピークハント登山では物足りないだろう。

これらの珍奇な様相は何をものがたるのか、大いに思索・想像しながら歩いてみよう

